第2回

12月8日 (水)

出演・三浦朱門さん 『四十歳の男』『沈黙』 第1回

12 月 1 日

永

-裏切り

場

所

幼きイエス会

予告 お 知

せ

第4回

12月22日 (水)

「こだわり人物伝」遠藤周作編 NHK教育テレビ・4週連続

のある作家たちが回想し、多彩で複雑 支持を得る遠藤周作について、ゆかり 映されます。時間は夜の10時25分から な顔を持つ作家の真の姿に迫ります。 50分まで。今なお多くの人々の共感と (内容) 「こだわり人物伝・遠藤周作編」が放 来る12月1日(水)より4週連続で

日

長崎の遠藤周作文学館からほど近い長崎 市下大野に「ひなたの匂い」というカフェが 内 あったと、NHK の取材スタッフ(「こだわり人 物伝」)が教えてくれました。その店名を聞け ば遠藤文学ファンなら思い出すことがあります。 遠藤周作の生涯とも照らし合 『沈黙』が書かれた時、作者がはじめに付け ていたタイトルが「日向の匂い」だったのです。 こんな店名をつけるというのは、さぞや遠藤 文学に通じた方……と推測し、早速お電話し

◆トピックス◆

長崎・遠藤周作文学館の近くに

カフェ「ひなたの匂い」を発見

大の遠藤ファンでした。 「夕日がきれいで遠藤周作文学館にはよく行っ ていました。私は大人になってからの遠藤ファ ンで、まずエッセイを愛読しましたが、あると き文学館で講演を聴いて、それで〈日向の匂 い〉というタイトルのことを知りました」

ました。オーナーは大石千代美さん、やはり

大石さんは長崎市内にお住いですが、昨年 (2009年) の 4 月に下大野にお店をオープ ンし、金・土・日の午前11時から日没まで カフェ「ひなたの匂い」を営業しておられます。 そこにお店を開いたのは、もちろんそこが遠 藤文学の聖地とも言える外海だからです。

遠藤周作文学館から、長崎市内とは反対方 向に進み、青、白の二つの橋を渡った先が 大野で、「ひなたの匂い」は大野教会の下に あります。訪ねる場合は、ちょっと電話をして から、というのがいいかもしれません。

■カフェ「ひなたの匂い」 電話 0959-24-0830 住所 長崎市下大野 2535

■ 発

行

所

5時35分から6時まで放映されます。 こ期待ください。 なお、 すべて夜10時25分からです。 出演・瀬戸内寂聴さん 『深い河』 (水)、 再放送は12月8日 22日 (水)、 母なるもの 29 日 (水) の朝 (水)、 どうぞ 15

◆遠藤文学講座のお知らせ 遠藤周作『キリストの誕生』を読む.

11月13日、12月11日 確認ください) ますので、申し込みの際にご 午後3時20分~4時50分 (日時は変更する場合があり \pm

受講料 師 03-3261-0825 1回2000円 山根道公 、四ツ谷駅麹町口前

風編集室 **M** 086-227-5665 (学生半額

申込み

容

第3回

12月15日 (水)

出演・加賀乙彦さん

『侍』 『死海のほとり』 ―

中期の傑作

講

出演・林真理子さん

狐狸庵閑話』-

作家の孤独

申込み 風編集室

kazehensyuusitu@yahoo.co.jp 送りします。 に直接申込むと送料無料でお

を読む(マザー・テレサ、 〈山根道公著「遠藤周作『深い河』 宮沢賢治

孤独な魂の問題や対立する宗 内容です。 教性とも関連させて読み解く ザー・テレサや宮沢賢治の宗 の人生とも絡め、また、マ られた『深い河』を、遠藤氏 遺言ともいうべき思いの込め を生きる私たちへの遠藤氏の 教の問題を背負う二十一世紀

朝文社刊・2820円

Eメール **M** 086-227-5665

もうすぐお正月、 ▼それにしても月日の経つのは早いですね。 よいお年を。

キリストを探っていきます。

ちを変えていく永遠の同伴者

生』を読み解き、

弱い弟子た

わせながら、『キリストの誕

と響きあう世界」〉

のスタートです。 があっていいのだと思いますが、 年通りです。「変わるものと変わらぬもの」 ります。 会報の編集を心掛けていきたいと思ってお ▼とはいえ、年間スケジュールは、ほぼ例 んの「声」を反映させて、よりよい会の運営

会員の皆さ

的なキリスト教の枠の中に身を置くのでは 変に大きな問題提起です。遠藤先生は西洋 て、遠藤文学は成り立っているのだと思い 理解しようとしました。浄土真宗の教えに なく、日本人の信仰心の原点にあるものを がでしたでしょうか。「小さな」どころか大 対する共感と疑問、そうした矛盾を内包し ▼原稿発掘「小・さ・な・疑・問」、いか

剱

周作クラブ」第41 2 0 1 0 年 11 号 月

発行

■ 発 行 ■編 集 人 高橋千劔破 加賀 乙彦

■この号の編集者 ■副編集人 金子 コウ

東京都世田谷区上馬4-29-17 近藤恭弘、高木香織、太原正裕(田) 岡田厚美、一田佳希、大原雄、

TEL080-1097-1979

加藤宗哉事務所内「周作クラブ

▼編集後記

終え、本号からまた新たなる「周作クラブ」 なりました。総会も、報告にある通り無事 べれば、ささやかな会報となりましたが、 通常号とすれば、なななか充実した内容と ▼前号の第40号(10周年)記念特大号に比